令和８年 11 月５日

奈良県内経済情勢報告

（令和８年 10 月判断）

１．総論

【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）令和８年 10 月判断は、前回８年７月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	横ばいの状況にある	**弱含んでいる**	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→
設備投資	8 年度は前年度を上回る見込み	8 年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	8 年度は増益見込み	8 年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個 人 消 費　「緩やかに回復しつつある」

・**百貨店・スーパー販売**は、一部に節約志向がみられ、低調に推移している。

・**コンビニエンスストア販売**は、雨天が多かったこともあり、客数が伸び悩んだことから、低調に推移している。

・**ドラッグストア販売**は、菓子類や季節商品を中心に需要があり、堅調に推移している。

・**ホームセンター販売**は、防災関連商品・応急復旧用品などに需要があり、堅調に推移している。

・**家電大型専門店販売**は、耐久消費財を中心に需要があり、堅調に推移している。

・**乗用車新車登録届出台数**は、普通車・小型車・軽自動車すべてにおいて前年を下回っていることから、全体で前年を下回っている。

・**観光動向**は、国内観光客の増加により、回復している。

（主なヒアリング結果）

➢ 消費者は必要な商品については購入する一方で、不要不急の商品の購入には慎重であり、セール時の衝動買いは年々減少している。（百貨店・スーパー）

➢ ほとんどの商品で値上げが続くなか、客数および売上数量は4月以降回復傾向にあることから、消費者の値上げに対する抵抗感は徐々に薄れつつあり、節約志向が一段落している印象を受ける。（百貨店・スーパー）

➢ 雨天の影響により客数が減少した。商品動向では、高価格帯商品と PB 商品をはじめとする低価格帯商品への需要がみられ、消費の二極化が進んでいる。また、消費者の節約志向については依然感じるところで、年齢が上がるにつれてその傾向が強い印象を受ける。（コンビニエンスストア）

➢ 中国人観光客数が大幅に減少しており、客単価の高い中国人の来店が減少していることが痛手となっている。商品別では菓子類に加え、ボディーシートやハンディファンなどの季節商品が売れ筋となっている。（ドラッグストア）

➢ 7月末の熊本地震を契機とした防災関連商品・応急復旧用品の需要がみられたほか、スタッフの営業力強化によって外壁塗装や外構工事などの小規模リフォーム需要も取り込めている。（ホームセンター）

➢ 2027 年からの省エネ基準強化を見据えたエアコンの買い替え需要により売上げが伸長した。消費者は機能や品質が良く付加価値の高い物については高価格帯でも積極的に購入する一方で、生活雑貨などの日用品はより安価な商品を選ぶ傾向にあり、メリハリ消費が見受けられる。（家電量販店）

➢ 主力である大型車種に加え、当期はコンパクトカーの販売も好調であったことから、新車の売上高・販売台数ともに前年を上回った。また、人気車種は早期に受注枠が埋まる状況となっており、自動車需要は堅調に推移している。（自動車販売店）

➢ インターハイ開催に伴う宿泊需要に加え、設定単価の高いシルバーウィーク期間の国内観光需要が伸びたことなどから、売上高は好調であった。一方、インバウンド需要は中国人観光客の減少等により低調な状況が続いている。（宿泊）

➢ スポーツ大会やお盆需要などにより客室稼働率が上昇した。また、「飛鳥・藤原の宮都」が世界遺産に登録されたことを契機に当該地域への関心が高まっており、観光需要が増加している。（宿泊）

➢ 雨天の多い週末や連休がみられたことから観光需要は想定よりも伸び悩んだものの、昨年の万博関連の反動を除けば概ね例年並みの水準で推移している。（陸運）

■ 生産活動 「弱含んでいる」

鉱工業生産指数は、「パルプ・紙・紙加工品」「プラスチック製品」などが上昇しているものの、「食料品・たばこ」「生産用機械」などが低下している。

なお、企業からは、AI 需要を背景としたデータセンターの建設の拡大により半導体・電子部品関連の需要が旺盛との声が聞かれる一方、EV 市場の減速、北米や欧州からの受注減により自動車向け部品・電池関連が低調との声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、弱含んでいる。

（主なヒアリング結果）

- 海外の AI 上流企業は非常に好調な模様で、データセンターの旺盛な建設需要によって、海外から半導体製造装置関連で大口受注を獲得した。（生産用機械）
- 北米の EV（電気自動車）市場の減速により、新規の案件はなく低調に推移しており、足下では既存受注案件の立上げが中心となっている。（生産用機械）
- AI 半導体の需要は世界規模で急成長しているが、パワー半導体に関しては EV 需要の減速の影響を受けており、当社の売上げも数年前と比べて半減している。（生産用機械）
- 自動車部品関連で、中東情勢の影響を受けて自動車メーカーが北米や欧州で減産していることから、受注が減少している。（輸送機械）
- 天候不順により野菜の仕入れ値が上がっているが、販売価格への転嫁は困難。（食料品）
- 昨年は当社製品がテレビで紹介されるなど特需があったため、その反動を受けている。また、物価高を起因とした消費者の節約志向は依然として強い。（繊維）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っている。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和 3 年 4-6 月期調査以降 22 期連続の「不足気味」超となっていることなどから、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 観光客の増加を背景に客室稼働率が上昇しているほか、ツアー客の利用増加によりレストランの来客数も増えており、人手不足感が強まっている。（宿泊）
- パート・アルバイトの確保が難しく、慢性的な人手不足の状態にある。他店舗からの応援により、何とか回している状況。（小売）
- 機械・電気工学系人材の採用が困難なため、化学系など専門外の人材も採用している。また、人材確保に向けて、大学との共同研究や無料講座の実施などに取り組んでいる。（生産用機械）
- 生産量が横ばいに移行しつつあることや、AI 活用などの省人化投資を進めていることから、今後は正社員よりも柔軟な調整が可能な派遣社員の増員を進める方針である。（輸送機械）
- 物価高に伴う仕入価格の上昇や、人件費の高騰によって収益が圧迫され、人手不足の状況にあっても求人を控える企業が見受けられる。なお、価格転嫁が十分に進んでいない企業においては、特にその傾向が強い。（公的機関）

■ 設 備 投 資 「8 年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和8 年 7~9 月期

8 年度の設備投資は、製造業では前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業では前年度を上回る見込みとなっていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「8 年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和8 年 7~9 月期

8 年度の経常利益は、非製造業では減益見込みとなっているものの、製造業では増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 新設住宅着工戸数でみると、持家・貸家・分譲すべてにおいて前年を上回っていることから、全体で前年を上回っている。

■ 公 共 事 業 前払金保証請負金額（累計）でみると、国、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ 企 業 倒 産 倒産件数及び負債総額は足下で前年を下回っている。

■ 企業の景況感 法人企業景気予測調査（令和 8 年 7~9 月期調査）の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、「上昇」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕
近畿財務局 奈良財務事務所 財務課
TEL 0742-27-3162（直通）